

いつ首都圏を襲ってもおかしくないといわれ、一抹の不安を抱きながらも、まだ大丈夫ではないかと思いがちな巨大地震。皆様のご家庭では、減災の為の備えは進んでいらっしゃいますか？

建物の耐震を考える。

家具の転倒防止。

3日間の水と食料の備え。〔本当は1週間が望ましいそうです〕等。

自分が何もしない人ほど他者に対して文句が多いのが世の常というのですが、予測されている地震はそんな甘えを許さない規模なのです。何よりも自分の命は自分で守る気構えが大切になります。

けれど、駒場の大火の経験でも明らかなように、広域災害の恐ろしさは自分の家を守っているだけでは、手の施しようがないということです。その時力を発揮するのが常日頃からのご近所のつながりなのです。

本年3月に駒場小学校図書室で開催された「防災の夕べ」には百余名の地域住民の方が参加されました。けれど、この地区の人口1万2千人弱を考えると、減災意識浸透への遠い道のりを感じます。

消防団、防災部の高齢化が進む今、この地区で一番人口の多い20代後半から40代前半の活動が強く望まれます。ご自身の生活を守る為にも、若い力を是非駒場を守る為にお貸しいただけませんか？

まず我身、家族守って家守る

隣守れば、駒場守れる